

1-1. 事業概要

2020年1月に国内で初めて新型コロナの感染者が確認されて以来、感染の拡大と収束を繰り返し、2022年8月の第7波、2023年1月の第8波ではこれまで最多の1日あたり20万人を超える感染者数を記録した。その一方で、種々の行動制限は少しずつ緩和され、政府から3月以降マスク着用は個人の判断に委ねることや、5月には感染症法上の位置づけを2類相当から5類へ変更することなどが発表されて、感染拡大前の社会への回帰が徐々に見えはじめてきている。

このような社会環境のなか、JSCAにおいてもコロナ以前の活動ができるようになってきた。2022年6月には、3度に渡って延期された構造デザイン発表会 in 沖縄が300名以上の参加者を集めて盛大に開催された。発表作品も過去最高の118作品であった。10月には「新人技術者向けの建築ツアー」として、見学会 in 石川が非会員12名を含む58名の参加者にて1泊2日の日程で開催された。金沢市内の諸施設や工場を見学し好評を得た。26名は40歳未満の若手技術者であり、JSCAの裾野を広げる目的が達成できた。2023年1月には、3年ぶりに賀詞交歓会を行った。参加人数を通常の半分とした開催ではあるが、久々の対面での交歓を楽しんだ。各支部においても同様に対面による新年互礼会が復活した。また、これらのイベントのみならず、委員会・部会もWEB会議から対面主体に移行しており、特に2023年2月以降、事務局での開催が急増している。

情報・通信分野においてデジタル技術の活用が急速に広まっているが、JSCA活動においても例外ではなく2022年度は多方面で実用化した。これまでのWEB会議に加えて、WEB講習会およびその参加費の電子決済、発表会やシンポジウムのオンデマンド配信、structureの電子ブック化、委員会用のファイルサーバーの提供などを行った。また、会議ではパソコン・タブレットの使用を原則としペーパーレス化を進めている。現在、ホームページをリニューアル中であるが会員証発行や入退会手続きの電子化も取り入れる予定である。

2023年2月6日に発生したトルコ地震に関して、国際委員会/国際緊急援助隊部会から2名が構造評価専門家として現地に派遣された。

2022年度の重点目標に関する事業およびその他の主要な事業は下記の通りであった。

1) JSCA 中期ロードマップの実行へ向けた活動

中期ロードマップでは2022年度は各事業項目を実行するステージであり、主な具体的活動は下記のとおりであった。

- ① 会員サービス・メリットを拡充し会員増につなげる活動
  - ・構造デザイン発表会をオンデマンド配信し、会員外へもその魅力を伝えた。
  - ・アイデアコンペ（アイス棒タワー）の動画を作成し、シンポジウムで放映するとともに2023年企画のPRに活用した。
  - ・新人技術者向け事業として見学会を実施した。
  - ・「困りごと相談箱」を新設し structure で会員へ周知した。
  - ・しかしながら、コロナ以前は100名前後であった新規入会

者は54名（2022年度）に留まっており、引き続き会員増に向けた活動が必要である。

② 収支の改善に向けた活動

- ・構造設計一級建築士の修了考査解答集の販売に合わせて、新たに解説講習会を実施した。聴講者は157名であった。

③ JSCA 建築構造士に関わる活動

- ・脱炭素社会と構造設計をテーマに定期講習会を開催した。
- ・構造士の価値向上のための施策はなかなか打ち出せず、受験者数・資格者数の増加は実現できていない。

2) SDGs 達成へ向けての活動

① 中大規模木造建築関連（目標13, 15）

- ・中大規模木造ポータルサイトの運営に参加した。
- ・中大規模木造建築物の標準的な構造設計、構造計算プログラムの開発支援を行った

② 適正な業務報酬（目標8）

- ・国土交通省業務報酬基準検討委員会（告示98号改定）に参加し、アンケート調査への協力や告示見直しに対する意見提出を行った。
- ・JSCA 契約約款を改定し、建築構造設計・監理業務委託書として公開した。

③ 性能設計【耐震性能編（簡易法）】の公開（目標11）

- ・技術委員会報告会にて解説し、ホームページ（会員ページ）に公開した。

3) BIM 普及へ向けた基盤づくりの活動

- ・2021年度に引き続き国土交通省建築BIM推進会議および関連部会に参画した。
- ・技術委員会報告会を開催し、BIMの現状と世の中の動きについて報告した。
- ・各支部においてBIMセミナー「これから始める構造BIM」を開催した。

4) 会員の技術力向上へ向けた活動

- ・本部主催の主な講習会は以下の通り。
  - 第33回 JSCA 賞受賞者講演会、賛助会員との技術交流会、構造デザインシンポジウム、技術委員会報告会、中堅構造技術者講習会（スキルアップセミナー）、JSCA 建築構造士定期講習会
- ・構造設計実務者研修「基礎編」テキスト改定に着手した。

5) 第33回 JSCA 賞

2022年度の総会において JSCA 賞の発表と賞状授与を行った。その後、同会場にて受賞者から記念講演（オンライン併用）を行った。

受賞者、受賞作品は以下の通りである。

作品賞	河合正理氏	「四日市市総合体育館」
新人賞	岡山俊介氏	「福田美術館」
	堀駿氏	「熊本城特別見学通路」
業績賞	水谷太郎氏、川本慎一郎氏、村瀬正樹氏、菅野貴孔氏、大和伸行氏	
		「限られた好機で実現させた国立競技場の構造設計による施工性向上に対する貢献」

上記以外にも様々な事業を行った。詳細は会議報告、委員会活動報告、支部活動報告などを参照されたい。

1-2. 役員／体制

□役員	
会長	常木康弘（代表理事）
副会長	横山一智（代表理事） 小林秀雄 久田基治
専務理事	嵐山正樹（業務執行理事）
常務理事	日野康彦（業務執行理事）
理事	
本部担当	江尻憲泰 大島嘉彦 太田俊也 小西泰孝 小林真一郎 佐々木直幸 塩手博道 篠崎洋三 柴田昭彦 島野幸弘 杉浦盛基 中塚光一 渡邊秀幸
支部担当	北海道 渡邊和之 東北 平山浩史 関東甲信越 唐戸弘樹 中部 内本英雄 関西 大住和正 中国 村瀬忠之 四国 戸田友一 九州 今林光秀
監事	伊藤 優 新宮清志 向山松秀
□支部長	各支部担当理事が兼務
□協会顧問	弁護士 服部成太 公認会計士 元森俊雄 前専務理事 福島正隆
□事務局員	職員数4名（うち大阪1名）

1-3. 会員数の推移

年度	正会員	一般会員	学生会員	賛助会員	名誉会員	学術会員	JSCA 建築構造士	構造設計一級建築士
10	4020	135		227	29	165	2457	※3275
11	3983	131		233	28	163	2249	※3368
12	3925	131	6	230	28	157	2183	※3342
13	3909	129	8	227	26	155	2113	※3355
14	3929	134	7	231	25	151	2030	※3388
15	3910	126	6	235	25	147	1957	※3353
16	3867	122	6	234	29	145	1862	※3342
17	3853	88	10	234	32	143	1785	※3308
18	3803	101	10	237	31	137	1727	※3250
19	3773	111	7	240	34	134	1638	※3205
20	3706	116	6	239	35	128	1576	※3161
21	3609	122	3	239	35	123	1469	※3071
22	3500	114	13	238	34	114	1380	※3000

※構造設計一級建築士証の写しを添付し、本協会に届け出た会員の数である。